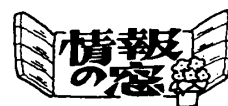


第13回FMESシンポジウムルポ



所 健一 ((財)電力中央研究所)

日本学術会議経営工学研究連絡委員会が毎年1回主催して行われる FMES シンポジウムが、去る6月27日日科技連東高円寺ビルで開催された。今回は「ネットワーク時代の新しい文化—経営工学をとりまく新しい環境—」というテーマで、最近何かと注目を集めているインターネットを中心に、情報ネットワークに関する話題について各分野を代表する方々に講演いただいた。

最初に「ネットワーク仮想コミュニティにおける人間協調性」というテーマで、東京工業大学の遠藤薫助教授による、コンピュータネットワーク上に構成されるコミュニケーション空間(仮想コミュニティ)に関する講演が行われた。講演では伝統的コミュニティや現代社会の象徴である利益社会、さらには神話世界との比較が行われ、そこから導き出される人々がいづく仮想コミュニティ観について解説がなされた。

次に NEC 特別顧問の水野幸男氏に「ネットワーク時代における企業の戦略と形態」というテーマで、「人、物、金」に続く第4の経営資源である「情報」を、いかに有効に利用して競争優位を得るか、このために必要となる組織のあり方や業務展開の戦略について講演いただいた。水野氏にはひとつひとつ NEC での実例を挙げながら、より実践的な形で情報ネットワークを用いた企業改革ポイントについて説明いただいた。

つづいて京都大学の池田克夫教授に「オンラインユニバーシティ構想」というテーマで、ネットワークを

介した新しい教育と研究の可能性についてお話しいただいた。講演では現在25の大学・企業が参加して行われている OLU (On-Line University) ネットワークの実験や、遠隔学習システムに望まれるハード的な要求に加えて、大学間での単位の互換性や、卒業生の出身校の決め方など、実用化に向けて決めておかなければならない運用上の問題が説明された。

しばしのコーヒーブレイクの後、情報処理振興事業協会理事の棟上昭男氏に「ネットワーク時代のプライバシーとセキュリティ」というテーマで、プライバシーやセキュリティの問題をはじめとして、電子取引引きやデジタル情報の著作権問題など、現在のインターネットがかかえる問題点と、これに対する対応策について解説いただいた。

最後に「ネットワーク・インフラストラクチャの問題点」というテーマで、大阪大学の宮原秀夫教授に講演いただいた。宮原先生はコネクションレス通信を基本としたインターネットは、通信品質保証などの面から見て必ずしもオールマイティでないこと、また、マルチメディアサービスの普及には、インフラ整備が不可欠であることなどを指摘された。

講演の終了後には、参加者から講演者への質疑応答形式で全体討論が行われた。全体討論ではコンテンツの充実度や政府の情報インフラ整備に対する態度、標準化への影響力などの日米比較を論点に、活発な討論が予定時間いっぱいまで行われ、盛況のうちにシンポジウムは終了した。